



2026年2月発行 | VOL.5

THE TOBISHIMA TIMES

編集・制作：島づくりディレクター 服部帰蝶 連絡先：とびしま総合センター TEL 95-2001



『THE TOBISHIMA TIMES』第5弾をお届けします。冬の飛島では、年末年始にかけて定期船の欠航が続き、日々の暮らしを支える対応が求められる場面がありました。今号では、そうした中での島の様子をお伝えします。

22日間の欠航、飛島で何が起きていたのか

長期欠航下の飛島と、支え合いの記録

2025年12月24日から2026年1月14日までの22日間、定期船「とびしま」が連日欠航し、飛島への物流が約3週間停止する状況となりました。

欠航期間中、年末には医薬品の到着が滞っていたことから、島内で薬の不足を懸念する声が上がりました。これを受け、センターへ状況を報告し、センター長を通じて酒田市など関係機関へ情報共有が行われました。その結果、1月7日には海上保安庁のヘリコプターにより、医薬品の搬送が実施されました。

あわせて、島内の状況を踏まえ、関係機関と連携しながら、島民の皆さまのご協力のもと、災害用備蓄食料の一部を全島配布する対応が行われました。また、より正確な状況把握を行うため、センター職員が協力して島内を全軒巡回し、生活物資や医薬品に不安がないかの確認を行いました。

飛島では、長期欠航に備えて食料を備蓄されている方が多い一方で、今回については一時的な滞在者や交代勤務の方など、十分な備蓄が難しいケースもあり、事情により食料が不足する方もいました。

さらに、欠航期間中には倒木が島内数か所で発生し、一部は電線にかかる状態となりました。島内には常駐する電力事業者がいないため、対応には船やヘリコプターによる来島が必要となり、不安の続く状況となっていました。

1月15日には臨時便が出航し、連続22日間続いていた欠航は解消され、多くの物資が島内に届けられました。一方で、急な出航決定であったため、事前に注文していた食料が間に合わなかった方もおり、すべての課題が完全に解消されたわけではありませんでした。

それでも、船の到着を受けて島内では「あけましておめでとう」「年賀状がやっと届く」「クリスマスプレゼントも届くかもしれない」といった声が聞かれるなど、ひとまず大きな安心感が広がりました。定期船の到着時には島民が港に荷物を受け取りに集まり、欠航が続いている港も、この日は久しぶりに明るい雰囲気に包まれていました。

私は、こうした対応に加え、島内の状況を正確に外部へ伝える役割として、複数のメディアからの取材に対応するとともに、島内の様子を撮影し、映像や情報の提供を行いました。報道の方法や表現については各社の判断に委ねられていますが、臨時便出航当日以降も、数日にわたり必要な情報の提供を継続しました。

今回のような長期欠航は、今後も発生する可能性があります。緊急の物資輸送が必要となった場合、飛島の港は水深や規模に制約があるため、着岸場所や輸送手段の確保など、事前に整理しておくべき課題があることを改めて考えさせられました。

離島という立地上、本土とは異なる制約があることは承知の上ですが、離島に人が暮らしている以上、人の安全を守る体制の確保は不可欠です。

今回の事態を踏まえ、緊急時における情報の把握や共有、物資確保の体制について、地域・行政・関係機関が連携し、より適切な対応が取られていくことが期待されます。



欠航期間中、島内では書ききれないほど多くの出来事がありました。本ページでは、その一部を、感謝の気持ちとともにご紹介します。



↑年末に発生した倒木の様子。

年末に発生した倒木は、発見時点で完全に倒れきっており、電線への影響はありませんでしたが、通行に支障が出ていました。センター職員、警察官、島民の方々と連携して撤去対応が行われ、迅速な対応により通行の安全が確保されました。ありがとうございました。



↑お誘いいただいた集まりの様子。

年末年始は気持ちが沈みがちな時期でしたが、温かく声をかけていただき、心強い時間となりました。ありがとうございました。



↑災害用食料の分配の様子。

島内の状況確認をあわせて、配布物の選定や島民の皆さまへの配布など、多くの場面でご協力いただきました。ありがとうございました。



↑欠航中にいただいたお野菜の一部。

とてもおいしくいただきました。温かいお心遣いが大変ありがとうございました。



↑島内巡回時の様子。

場所を分担し、私は消防職員とともに法木地区全軒および一部勝浦・中村地区を訪問しました。お声がけや差し入れをいただく場面もあり、ご協力に感謝しています。ありがとうございました。



↑島へ戻ってこられた方々の様子。

時間が限られており多くはお話してきませんでしたが、皆さんお元気そうな姿が印象的でした。

「心配してたよ」と声をかけていただく場面もあり、温かなお心遣いをありがとうございました。

飛島地区 出初式に参加して

放水訓練と資材点検を通して見えた、日常の備え

1月3日、消防団員として、飛島地区の出初式に出席しました。私は飛島来島後に消防団へ入団したため、出初式への参加は今回が初めてとなりました。出初式は、新年にあたり防火・防災への決意を新たにし、消防団員の士気を高めるとともに、地域全体の防火・防災意識の向上や、消防活動への理解を深めることを目的として行われる行事です。当日は、放水訓練をはじめ、分団長からの講評、山グラウンドにおける資材庫の点検などが行われました。

放水訓練は、春季消防演習以来の実施となりました。当時の動きを思い出しながら対応しましたが、長年消防団員として活動されてきた島民の方から、姿勢や動作について改めてご指導をいただく場面もありました。また、訓練中にはホースの一部に損傷が見つかり、水が漏れる状況も確認されました。実際に体験したこと、日頃からの点検や備えの重要性を改めて実感しました。

資材庫の点検では、事前に消防職員の方が物資の数量や賞味期限を確認してくださっており、倉庫内は防災訓練時よりも整理された状態となっていました。あわせて、災害時に使用するテレビについても使用方法を教えていただき、万が一の際に活用できる知識を得ることができました。

今回の出初式への参加を通して、消防団活動が日常の備えの積み重ねによって支えられていることを実感しました。今後も引き続き、活動への理解を深めていきたいと考えています。



年の瀬の餅つき行事

島民のみなさんと迎える、あたたかなひととき

昨年の話になりますが、12月22日、とびしま総合センターにて餅つきが行われました。はじめに、デイサービスを利用されている島民の皆さんの餅つきの様子を見学させていただきましたが、ご年齢を感じさせない力強い動きに驚かされました。餅をつく姿勢や力加減はとても安定しており、まるでお手本のようでした。中には現役で漁師をされている方もいらっしゃり、日頃の体づくりの賜物などと感じました。

その後、私を含めたセンター職員も餅つきを体験させていただきました。慣れている方とそうでない方の差ははっきりと出てしましましたね。私は、おそらく一人で杵を使って餅をつくのは初めての経験で、想像以上に重く感じました。大きく振りかぶることはできませんでしたが、餅をよく見ながら、できる範囲で丁寧につくことを意識しました。

ついたお餅は、島民の方々が手際よくお雑煮とあんこ餅に料理してくださいました。どちらもとても美味しく、特にお雑煮は出汁がよくきいていて、つい夢中になってしまふ味でした。

新しい年を迎えるにあたり、2026年も島のみなさんが元気に過ごされますようにと願いながら、心温まる餅つきの一日となりました。



交流イベント「スナック裕美」酒田版を開催

多様な立場の参加者が語り合った、酒田のこれから

12月12日、富士通Japan株式会社と合同会社とびしまの共催による交流イベント「スナック裕美」が、SAKATANTOにて開催されました。本イベントは、これまで飛島島内で開催されてきた取り組みで、今回は酒田版として規模を拡大し、「酒田の未来を語り合う」をテーマとした非営利の交流イベントとして実施されました。当日は30名を超える方々にご参加いただきました。

今回、私はイベント開催に向けた一部業務についてお声がけをいただき、協力者として関わりました。開催に向けては、関係者との打ち合わせを重ねながら、チラシや参加フォームの作成、参加者情報および名簿の管理、可能な範囲での広報活動（SNSなどのオンライン発信、活動報告を兼ねた県庁訪問等）、SAKATANTO担当者との連絡調整、酒田市への後援申請に関する対応などを担当しました。

当日は、テーブルごとに多様な話題が展開され、自己紹介をきっかけに、それぞれの業務内容や立場、今後取り組んでみたいこと、酒田市や庄内地域への思いなどについて、自然な意見交換が行われていました。その中で、参加者同士の共通する課題意識や関心事が次第に浮かび上がり、相互理解が深まっていく様子が印象的でした。

また、行政・企業・市民がそれぞれの立場から率直に意見を交わすことで、新たなつながりや、今後の協働につながる可能性を感じられる場ともなりました。参加者が未来への期待や課題意識を語り合う姿から、本イベントが酒田の将来を考えるうえで、有意義な交流の場となっていたことを実感しました。

私は、外部との調整や対応に関わる機会が多い立場でもあることから、今回のような交流の場に携わることで、多様な視点に触れながら、自分にできる役割や関わり方について改めて考える機会となりました。



日常業務と研修を通じた取り組み

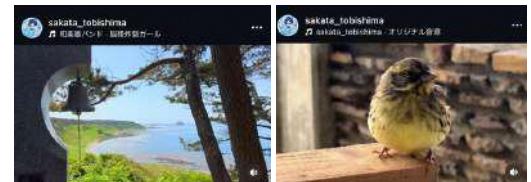
飛島内外での活動と、今後に向けた学び

普段の業務では、イベント事業の実施に向けた情報収集や資料作成、SNS等を活用した情報発信のための資料作成・動画編集、各種報告書や精算書類の作成など、PCを用いた作業が業務の中心となっています。協力隊通信の作成も、こうした業務の一環です。あわせて、必要に応じて草刈りや港・通院時の送迎など、地域の方のお手伝いも行っています。

また、飛島の今後を考えるうえでは、島内だけで完結するのではなく、本土（酒田市内等）との関わりを持ちながら進める業務も必要となるため、島外での業務も状況に応じて行っています。

こうした日常業務に加え、10月から12月にかけて、総務省主催の地域おこし協力隊向けオンライン研修を複数回受講しました。研修では、協力隊OB・OGによる体験談や、起業に取り組んだ方の実践的な話を伺うほか、各回で行われるグループワークを通じて、他地域の隊員と活動内容や課題について意見交換を行いました。内容は回ごとに異なりましたが、地域や立場は違っても、類似した悩みや課題を抱える隊員が多いことを実感する機会となりました。

研修で得た学びを踏まえ、今後は体験型企画などの取り組みをより具体的な形に整理し、飛島の魅力を島内外に伝える活動へ活かしていきたいと考えています。



↑発信している情報の一部です。
動画を中心に、複数のSNSを活用した情報発信を行っています。

沢口旅館でのひととき

合同会社とびしまの社員が集う「お疲れ様会」

12月1日、沢口旅館の女将・渡部陽子さんから『お疲れ様会』にお誘いいただき、沢口旅館に伺いました。沢口旅館は冬季に閉館するため、今回は合同会社とびしまの社員のみなさんの「お疲れ様会」と、社員の方のお誕生日会を兼ねた集まりでした。合同会社とびしまのみなさんとの集まりには、今回に限らずこれまでにも何度かお誘いいただいており、いつも大変あたたかく接していただいている。

思い返せば、飛島へ移住する前から事前に島について調べる中で、課題の多い土地で若い方々が中心となって活動されている会社があることを知り、「どんな方々なのだろう」と気になっていました。実際に移住後、直接お話しする機会をいただくようになり、みなさんとても優しく個性豊かで、知れば知るほど魅力的な方々だと感じています。

特に印象的だったのは、普段はとても穏やかなみなさんが、芋煮の話題になると一気に熱量が上がるというギャップです。私の母が鶴岡出身で、庄内地方を訪れる機会は多かったものの、祖父母の家では芋煮を食べる習慣がなかったため、庄内では芋煮論争はあまり起きないものだと思っていました。実際はそんなことはなく、その盛り上がりがとても印象に残っています(笑)。

飛島へ移住した当初は、現役の協力隊が私一人だったこともあり、島民の方々との関わり方や職務上の責任、孤独感などに悩むことも多くありました。そんな中で、合同会社とびしまのみなさんがいつも優しく声をかけてくださり、その存在に支えられたことを、今でもよく覚えています。日頃から何気ない会話をさせていただくことで気持ちが前向きになり、精神的にも元気をもらっています。

ちなみに、沢口旅館の料理はどれも美味しいのですが、特に茶わん蒸しが印象に残っています。実は私はもともと茶わん蒸しが苦手で、これまで美味しいと感じたことがありませんでしたが、ここで初めて「美味しい」と思える茶わん蒸しに出会いました。沢口旅館に宿泊される機会があれば、ぜひ味わってみてください。



ラジオを通じて伝える、飛島のいま

YBCラジオ出演とWebラジオでの情報発信の取り組み

11月29日、YBCラジオ『ドンキーのいいのお一庄内！』に出演しました。生放送での出演ということもあり当初は緊張していましたが、パーソナリティの方が終始話しやすい雰囲気をつくってくださり、落ち着いてお話しすることができました。番組内では、私の視点から見た飛島の魅力や自身の活動内容、島内で実施したイベントなどについてお話ししました。お話しする中で前向きな言葉を多くいただき、発信の意義を改めて感じる機会となりました。

また後日、たまたま放送を聴いていた島民の方から「ラジオ聞いたよ」と声をかけていただく場面もあり、島内外をつなぐ発信の一つとして、ラジオの持つ力を実感しました。

なお、ラジオ出演については今回が初めてではなく、過去にはWebラジオにも出演した経験があります。テレビアニメ『Summer Pockets』の声優の方々がパーソナリティを務める番組内の「離島紹介コーナー」にて、飛島の魅力についてお話ししました。収録にあたっては、事前にアニメ作品を視聴したうえで臨みました。声優の方々とのやり取りもスムーズに進み、作品を通じた共通認識があったことで、楽しくお話しすることができたと感じています。

私の活動の一つに「地域の魅力発信」がありますが、その手法はSNSに限らず、ラジオなど多様な形があります。今回のように発信の機会をいただけることは非常に有難く、求めていただける限り、今後も可能な範囲で丁寧に取り組んでいきたいと考えています。



11月29日放送
YBCラジオ
『ドンキーのいいのお庄内！』
※画像は公式HPより引用
<https://www.ybc.co.jp/radioprogam/donky/>



6月23日公開
テレビアニメ
「『Summer Pockets』離島応援ラジオ」
※画像は公式youtubeチャンネルより引用
<https://x.gd/bz7qf>

全国の島々が集うイベント「アイランダー2025」への参加

イベント参加を通じた広報活動と交流の取り組み

11月22日から23日にかけて、東京・池袋にて、全国の島々が集まる祭典「アイランダー2025」が開催されました。飛島ブースでは、「スタッキングサザエ世界大会」と題し、サザエの殻を積み上げる競技が行われました。当日は、合同会社とびしまをはじめとする関係各所が連携し、イベント運営や来場者対応を行いました。

私は合同会社とびしまの方々とともに前日準備から参加し、開催期間中の2日間は、スタッキングサザエ世界大会の参加者対応および広報活動を担当しました。また、佐渡島・粟島・飛島の三島交流をテーマとしたトークショーにも参加しました。

ブースでの広報活動では、来場者の関心を引く工夫として、被り物のコスプレを着用し、会場内での声掛けを行いました。顔が見えないこともあってか、来場者の方から気軽に声をかけていただく場面もあり、記念写真の撮影や会話をきっかけに、飛島ブースへ足を運んでいただくことにつながりました。実際の集客への影響を数値として測ることは難しいものの、ブースの認知向上に一定の効果があったのではないかと感じています。

トークショーでは、人魚の姿で登壇しました。普段とは異なる装いで参加であったため反応が気になっていましたが、登壇者の皆さんや会場の方々に温かく受け入れていただき、安心して参加することができました。後日、トークショーをご覧になった方から「人魚が楽しそうに話している姿が印象に残った」とのお言葉をいただき、発信の面で一定の印象を残すことができたと感じています。

今回、アイランダーへの参加を通して、発信や広報の一端を担う機会をいただき、大変ありがとうございました。課題の多い島ではありますが、その中で自分にできること、やるべきことを見失わず、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。



秋季火災予防運動への参加について

半鐘鳴らしや巡回パトロールを通して学んだこと

11月9日から15日までの7日間、秋季火災予防運動が実施されました。この運動は、空気が乾燥し火災が発生しやすくなる時期を前に、防火意識の向上を目的として全国的に行われているものです。

私は期間中、毎朝7時に行われる半鐘鳴らしを実施しました。また、7日間のうち2日間は、島民の方とともに消防団車に乗り、警鐘を鳴らしながら島内の巡回パトロールを行いました。

半鐘鳴らしについては、春季火災予防運動の際にも経験していましたが、消防団車での巡回は今回が初めてでした。そのため、走行ルートや注意点について、島民の方から一つひとつ丁寧に教えていただきながら対応しました。加えて、過去の火災についても教えていただき、島内では住宅が密集している場所が多いため、火災が発生した場合の影響の大きさを改めて実感する機会となりました。

今回の経験を通して学んだことを今後の活動にも活かし、防火・防災への意識を持ち続けていきたいと考えています。

